

『川崎病の適切な遠隔期管理に資するための遠隔期の心電図変化に関する観察研究』 に対するご協力をお願い

研究の目的と意義	この研究では、川崎病の急性期、遠隔期に施行した心電図とエコーの所見の変化、急性期における検査の所見、臨床症状等を詳細に解析します。心血管合併症は急性期に生ずる事が多いですが、遠隔期に生ずる事もありますので心血管合併症の診断の精度向上がなされると思われれます。川崎病の患者さんに対する診断・リスク評価は診断と治療の最適化を実施していく上で意義が大きいと考えられます。
研究の方法	診療録から診断日、初診入院日、生年月日（年月は必須、日については任意）、性別、身長・体重、既往歴、家族歴・家系図、症状、採血結果、治療内容（薬物治療・非薬物治療）、転帰を情報として取得します。 当院入院時、退院時、発症後1カ月、発症後2カ月、発症後1年の心電図、川崎病の急性期所見と心血管合併症の関係性、さらに治療内容と予後との関係を単変量・多変量解析、家系解析、Kaplan-Meier生存曲線などを用いて解析します。
対象者	2017年1月1日から2024年12月31日までに当院を受診し川崎病と診断されて、入院して心電図が記録されている患者さんが対象となります。
利用する試料/情報	診断名、診断日、初診入院日、退院日、生年月日（年月は必須、日については任意です）、性別、身長・体重、既往歴、家族歴・家系図、症状（特に川崎病症状、発熱、眼充血、口唇所見、発疹、手足の浮腫性変化・紅斑、頸部リンパ節腫脹）、採血（一般的な血算、生化学、凝固、NT-Pro BNP）、尿所見、心電図（心拍数、軸、PQ時間、QT時間、Q波（深さ、幅）、ST-T所見、肥大所見等）、治療内容（薬物治療・非薬物治療）、心エコー所見（LVDD、LVFS、弁膜症、冠動脈径（#1、#5、#6、#11で測定します）採血所見に関しては入院時、退院時のタイミングのものを研究に使用します。生理機能検査（心電図、心エコー）に関しては入院時、退院時、外来（発症後1カ月、発症後2カ月、発症後1年）に施行した検査結果を本研究に使用します。
利用する試料/情報の取得方法	通常診療で得られた診療録から取得します。
利用する試料/情報の管理責任者・住所	済生会横浜市東部病院 院長 〒230-8765横浜市鶴見区下末吉3-6-1
研究組織	【研究代表機関】 済生会横浜市東部病院 市川 泰広（研究責任者） 【既存試料・情報のみの提供を行う機関】 横浜市立大学附属病院 伊藤 秀一（提供責任者）
試料/情報の院外提供	「該当なし」
結果公表	本研究から得られた成果を国内外の学会にて発表、論文化して公表する予定です。
研究参加拒否・同意撤回	情報等を研究目的に利用されることを希望されない場合または一度研究参加に同意された後に同意を撤回される場合は、西暦2028年1月31日までに下記の問い合わせ先にご連絡ください。
当院研究責任者	済生会横浜市東部病院 こどもセンター/センター長/市川 泰広
問い合わせ先	〒230-8765横浜市鶴見区下末吉3-6-1 電話045-576-3000(代表) 済生会横浜市東部病院 こどもセンター/市川 泰広